

第1回「薬物乱用のない社会づくり きょうとふプランー京都府薬物乱用防止中期戦略ー（仮称）」政策検討委員会の概要

- 1 日 時 平成22年8月17日（火）午後1時30分～午後3時30分
- 2 場 所 京都府庁西別館4階 大会議室B
- 3 出席者 山野参与、井上委員、大石委員、加藤委員、木島委員、畑委員
（オブザーバー参加 京都府警察本部刑事部、京都市保健福祉局）
- 4 あいさつ 健康福祉部副部長
- 5 議 事（進行役：山野参与）

（1）「薬物乱用のない社会づくり きょうとふプランー京都府薬物乱用防止中期戦略ー（仮称）」の策定について（事務局）

- ・薬物乱用防止対策について 大麻事犯が過去最高の状況であり、その検挙者数の6割以上を10代、20代の若者が占めている。
- ・特に最近は、全国的にも、芸能人やスポーツ選手、大学生や高校生といった学生、教師等による薬物事犯も顕在化しており、薬物事犯の裾野の拡がり懸念される。
- ・こうした薬物乱用の原因として、薬物使用に対する犯罪意識の希薄化、地域家庭におけるつながりの希薄化、インターネット等による薬物入手の容易化に加え、海外からの密輸が巧妙化し違法薬物が広く国内に流通していること、乱用薬物の多様化が考えられる。
- ・については、薬物乱用防止にかかる目標として「啓発活動の推進」「薬物乱用者の治療、社会復帰の支援」「取締の強化」「薬事監視の強化」を4本柱に、ふだん啓発活動に関与いただいている団体やダルク、青少年育成に関わる方等の委員の方から意見をいただき、積極的な議論をお願いしたい。

（2）各委員の意見

- ・裕福層では依然として覚せい剤の使用が多いが、低所得層ではなるべく安く気分転換したいとの思いで、規制の難しいものまで使用されている現状は、啓発する上で頭においておくことが必要。
- ・警察の立場から言うと、やはり取締りの間口を拡げるのではなく、あくまで覚せい剤や麻薬を対象とした方がよいと思う。
- ・初めて薬物に手を出す人に対する教育が重要。
- ・やはり話を聞くだけでなく、薬物に手を出したらどうなるのか、苦しさなど具体的な情報を教えないと子供たちにとっても実感がわからないのではないかと。
- ・「ダメ。ゼッタイ。」運動は、必要だし重要だと思っているが、やはり啓発活動も

一つの方法だけではダメだと思う。

- ・一般の人に対する啓発と、リスクの高い集団への啓発では、やはり内容も分けていかなければいけないと思う。
- ・使っている人がいるから、使ったことのない人を誘って、薬物乱用者が増えていっているわけで、使っている人を減らせば、乱用者も増えないのではないか。
- ・今年は大学生の人にも認定をとってもらおうことにしており、大学生が講師となって小学校等へ出向いて講習会を実施したり、大学でも啓発していきたい。
- ・使っていない人への啓発のために、使った人たちがやめていくことができるようにした方がよい。(薬物を使った人がやめられるシステムを)
- ・薬物を使っている人を排除して、薬物使用者はいないという前提であることが、おかしいと思う。
- ・使っている人がいるという現実をもって、生きることの大切さ、倫理、モラルなど多方面からアプローチしたほうがよいのではないか。
- ・講演にしても薬物をしたけれども立ち直った人が、回復していくことのすばらしさなど伝えられたらよいのではと思う。
- ・薬物を使用したことがある人が講演するのはどうかという意見もある。
- ・かえって薬物を使っても立ち直れると思わせてしまわせないか。
- ・薬物を使用したことを、話すことのリスクと話さないことのリスクを比べると、話さないことのリスクのほうが大きいのではないかと思う。
- ・まったく薬物乱用のない社会というのは絵空事だと思うので、現実的な見方をしていたほうがよいのではないか。
- ・自分は何回か薬物乱用防止の話聞いただけの講師の話は、実感がないと思う。
- ・むしろ経験した人の話を聞いたほうが、子ども達が聞くのにインパクトは大きいと思う。
- ・立ち直った人の話を聞くと、手を出しても大丈夫なんだと思ってしまう面もある。
- ・啓発としては、やはり2種類あるべきだと思う。(薬剤師等が行う一般向けの「ダメ。ゼッタイ。」の啓発と、ダルクや警察の人が行うどれだけ薬物は怖いのかという啓発)
- ・実際、啓発を頑張っても薬物事犯は減らないが、啓発すらしなければ、もっと増えてしまうんだと思う。いずれにしても、やはり啓発は重要である。
- ・どちらに啓発の重点をしばっていくかというよりは、資料2にもあるように、啓発と再乱用防止教育それぞれに主眼をおいていくべき話だと思う。
- ・一般向けの啓発、高リスク層への啓発、両方必要だと思うが、高リスク層への啓発については遅れている事実をわかってほしい。
- ・これだけダメと言っているのに、薬物乱用がなくなるのはなぜか。
- ・薬物依存は病気だということを理解すべき。
- ・「ダメ。ゼッタイ。」だけでなく、何がダメなのかというところも伝えていけたらと思う。

(3) 今後の予定について（事務局）

本日の御意見を踏まえ、次のような方向性でプラン素案を作成し、次回の委員会で検討していただきたい。

- ・プラン期間は、当面今後2、3年を目途とする。
- ・特に、啓発・教育、再乱用防止対策が重要との意見をいただいたので、そこを中心に何ができるか整理をする。
- ・対象とする薬物については、あまり幅を拡げすぎでも対応出来ないので、現に問題の中心となっている、麻薬・覚せい剤の乱用防止対策を中心とする。

なお、今後の委員会は、

- ・第2回政策検討会議は 8月30日（月）を予定

